

あのときの常呂・写真館

VOL 103

(1984年)

昭和59年6月14-15日

土佐区開基90周年記念式典

▶昭和49年8月3日に行われた「土佐区の開基80周年記念式典・記念事業」は、「あのときの常呂・写真館」のVOL27で詳しく紹介しています。●それから10年後、土佐区の開基90周年記念式典は、昭和59年7月号の「広報ところ」で、両開きのページで大きく紹介されました。詳しい内容は、そのときの広報のページを最後に付けたので、PDFの文字サイズ変更機能（表示→ズーム→ダイナミックズーム）を使ってご覧ください。●ここでは、写真でそのときのようすをお伝えします。



*町内3ヶ所に設置した
PR看板（右は土佐神社、そ
の右側に開基80周年記念碑
があります）

*土佐公民館の前に組まれた
歓迎アーチ（開基80周年記念
のときと形は同じ）





* 6月15日の記念式典
会場は土佐公民館

* 土佐公民館横の開基80周年記念碑の前で神主のお祓い。左側に見える肖像画は、土佐からの団体移住団長／田村喜浩翁（80周年記念の時に製作したもの）



* 6月14日前夜祭の
仮装大会のひとつ
まっで水戸黄門の寸
劇

* 次ページ以降の写真
はすべて14日の前
夜祭のものです



*土佐区の子どもたちによる踊り。野外ステージの上にある土佐の文字に挟まれたマークは、「土佐章」（昭和49年8月3日制定）

『土佐郷土史』の最初のページに、このマークの解説があります



*お祝いムードが高まる七福神の仮装

*子どもたちが参加する魚つかみ大会





*土佐区の女性部による
バザー

*野外ステージを見つめる
土佐区の人たち
(後ろに見えるのは、土佐
公民館とバザーのテント)



*『土佐郷土史』の
史実に基づいて製
作した「開拓の村」



＊「開拓の村」には、開拓当時の生活を子どもたちに伝える役割がありました



＊仮装大会で開拓期の生活を再現、手にしている幕に気持ちが表れています

90年の開拓精神を伝える

—土佐区開基90年記念式典—

「土佐」の開基は、明治二十八年（一八九五年）五月、高知県土佐国高岡郡（現・土佐市）の人々二十八世帯が移民団体として入植、部落名を「土佐」とし開拓がスタートしました。その常呂町土佐が今年で開基九十年を迎え、六月十四・五日の両日、高知県側の代表者らも交えた盛大な記念式典が土佐公民館で開催されました。

開基九十年の今年は、この土佐区にも開拓期を知る人が少なくなり、先人たちの開拓当時の労苦を今の子供たちに伝えようと、土佐区開基九十年記念式典実行委員会（小原徳夫委員長・土佐区長）が企画、十四日の前夜祭では、土佐

公民館前庭に作られた特設ステージで、開拓期の生活を伝える手作り紙芝居「ひいおじいちゃんの開拓物語」を、土佐弁を巧みに使いながらの上演、約百五十人ほど集まった地区住民や子供たちを大喜びさせていました。

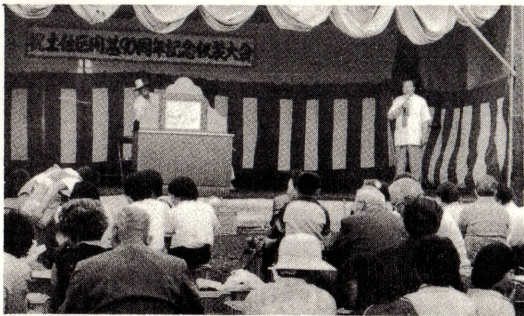
また、同公民館前には、「土佐郷土史」の史実に沿って忠実に再現した「開拓の村」もオープン。二十七平方メートルのワラぶき小屋の中で六体の人形が開拓当時の生活ぶりを伝えている立派なもので、農作業の合間を利用して、地区住民が作り上げた労作、まさに九十年前の生活がそのまま再現された精巧さ。

その他十四日の前夜祭では、宝つりゲーム、チャリティーバザー、区民対抗大仮装大会など盛りだくさんの催し物が行われるなど、地区住民総出で開基九十年を祝っていました。

翌十五日、午後三時から土佐公民館で行われた記念式典には、小原徳夫土佐区長ら地元の人々に加え、高知県側からも西尾一・同県出納長らの代表者も交え百人以上が出席、スライドを使って地区の歴史を振り返り、「土佐の歌」制定の発表などを行い、開基百年に向け、新たな飛躍を誓っていました。



開拓当時の生活を今の子供たちにも伝えようと作られた「開拓の村」



十六枚の水彩画を使い開拓期の生活全般が紹介されました



土佐の顔・顔・顔



九十年前の馬も登場！

